

人権コラム 心、豊かに

◆ あなたから始める「最初の一歩」

1800（寛政 12）年の4月 19 日、伊能忠敬が現在の北海道へ測量に出発したことにちなみ、4月 19 日は「地図の日」とされています。また、日本地図を完成させるために最初の一歩を踏み出した日でもあることから「最初の一歩の日」とも呼ばれています。伊能忠敬は 50 歳から天文学などを学び、1800 年の出発の時点で 56 歳であったといわれています。当時の 50 代というと家業を次世代に引き継ぎ、隠居している人がほとんどでした。その中で、伊能忠敬は学問を修め、学んだ学問を生かして現在の日本地図のベースとなる正確な地図を作ったのです。

まさに「物事を始めるのに遅いということはない」ということを体現していると言えます。これは、現代を生きる私たちにも見習うべき点があるのではないのでしょうか。特に人権問題について考えるとき、「今更、自分一人が何かしても意味がない」「上の世代の考えを変えるのは難しい」「放っておけばいずれなくなる」といった消極的な意見が出ることがあります。しかし、今もなお残っている人権問題は、そのままでは無くすることができないものばかりです。

例えば、昔から引き継がれてきた偏見からいわれのない差別を受ける部落差別や、周囲の理解が得られずに社会の中で生きづらさを抱えてしまうセクシュアルマイノリティ等の人権問題があります。また、近年ではインターネット上で様々な人権問題に対して、誤った情報や差別、偏見を助長するような内容の情報があふれています。このような状況を改善していくためには、差別や偏見を広げないように小さなことでも実践していくことが大切です。たとえ最初は一人でも個人個人がそれぞれ心掛けることで、少しずつでも変わっていきけるはずですよ。

伊能忠敬の偉業に思いを馳せて、まずは自分が変わるための「最初の一歩」の機会にしてみたいはいかがでしょうか。

「広報ひた」 令和 4 年 4 月 1 日号掲載